

「医療壊滅の恐れ」

印譜



定例会見を行う日本医師会の中川俊男会長＝13日午後、東京都文京区

(歴長・施田隆子) 国立感染症研究所長は13日、会合を開き、全国の新規感染者数が前週の一週間平均の1・72倍に達するとのデータを公表しました。東京都は1・81倍で、人口10万人あたり88・9人に達します。都内で入院先や宿泊療養先が決まりず調整中の人は前週の約3千人から倍増し、6千人を超えたことも分かりました。

日本医師会の中川俊彦
男会長は13日、都内で定例会見し、新型コロナウイルス感染症の拡大で逼迫（ひっぱく）する医療提供体制の現状について、「全国的に医療崩壊はすでに進行している」と強調しました。「このまま新規感染者数の増加が続くと、医療壊滅になつ

「でこぼこ」の状態になってしまった。心筋梗塞の原因ではないため全国的な緊急事態宣言発令の検討も含め、政府に早め早めの対策を迫りました。中川会長は「首都圏をはじめ、通常の入院治療を止めると、患者の受け入れを断る」と指摘。

対策を政府に迫る

東京都内

新型コロナウイルス対策を助言する厚生労働省の専門家組織「アドバイザリーボード」（座長・鶴田隆子国立感染症研究所長）は13日、会合を開き、全国の新規感染者数が前週の1週間平均の1・72倍に達するとのデータを公表しました。東京都は1・31倍で、

脳卒中で搬送される患者の受け入れ先が見つからなかったり、予定されていたがんの手術が延期されたりする事態が現実化していくと、供給がない、必要な時に適切な医療を受けることができない状態なのだ」と説明。「地域の医療体制は、コロナ

入院先・宿泊療養先決まらず
前週から倍増6000人超

新規感染者数（1週間平均） の前週との比較

全国	1.72倍
東京都	1.81倍
千葉県	1.84倍
神奈川県	1.66倍
埼玉県	1.58倍
栃木県	1.74倍
愛知県	1.5倍
岐阜県	1.18倍
大阪府	1.86倍
兵庫県	1.66倍
京都府	1.41倍
福岡県	1.94倍

地方での感染を抑えたいにも困難になる」と警鐘を鳴らしました。昨年末の感染拡大が、職場の宴会や若者の飲食場面から職場や家庭内の感染につながったと想えられたと分析。年明けからの全国的な急増の要因として、「帰省」による会食などの可能性を指摘しました。

会食後の記者会見で脇田座長は、首都圏一部の県の緊急事態宣言の影響について、「事態宣言の影響について、政策の効果が分かるまでに10から2週間程度かかる。効果を分析・評価しながら対策あり方を検討していく。宣言解除後に急激な増加につながるような提携をする機会がある」と言及し、国・自治体が一体となってアクションを取ることで、市民に感謝して求めました。